

第2回上牧町総合計画審議会 会議録

【日 時】令和3年7月30日（金曜日） 開始9：30 ～ 終了11：30

【出席者】21名

【欠席者】5名（岩脇委員、竹島委員、鐵東委員、平塚委員、渡邊委員）

【傍聴人】0名

【事務局】町職員：6名、コンサル：4名

1. 開会

（事務局挨拶）

2. 議題

（1）基本構想の見直しについて

事務局：（資料1について説明）

青木委員：2ページ目にある第1節（2）文中の「税込減による行政サービスの低下」という文言について、税込減によればサービスが受けられないというイメージにつながるため不適切に思う。「財政の硬直化」や「財政の行き詰まり」というような表現に変えるのはどうか。

事務局：検討を行い、次回審議会に反映する。

中山委員長：基本構想については、現行の基本計画から引き継がれるため、大枠の変更は基本的に行わないことになっているが、人口ビジョンの改訂、新型コロナウイルス、SDGs等の内容については修正することになる。現時点で特にご意見がなくても、改めて疑問点があれば事務局に問い合わせいただきたい。なお、基本構想の枠組みは変えないことをご理解いただければと思う。

（2）骨子（施策体系）案について

事務局：（資料「上牧町第5次総合計画 後期基本計画の施策体系図」及びページレイアウト案について説明）

向井委員：施策体系図について現行計画21ページの「まちづくりの基本理念と施策体系」を変えられるのだと思うが、20ページ「第1章 基本計画の構成」の文面は変更しないのか。

- 事務局： 基本計画の内容の精査も反映しつつ、検討を行う。
- 向井委員： 施策体系の図は全体を冊子に載せるのだと思うが、「施策の展開方向」をこれから検討する資料4と比べて項目名がバラバラ、文面が違う。整合が取れていないところが散見されるため、見直していただきたい。
- 事務局： 最終的には差し替え反映して共有させていただく。
- 向井委員： 現行の総合計画に載っている言葉は「町民」で統一しているが、変更案には「町民」と「住民」と「地域住民」という言葉が混在している。また、「障がい者」という言葉は現行の総合計画にはひらがなで書かれているが、施策体系図には「障害者」と漢字で書かれている。その点も統一していただきたい。
- 事務局： ご指摘いただいた点について、どのように使い分けるのかについて、今後の検討でも意見をいただきたい。「障がい」の表現については前回もいろいろな議論があったが、その際は固有名詞と一般名詞で表現を区別した。
- 柴崎委員： まず施策体系図について、総合計画が横軸、総合戦略が縦軸という構成になっているが、総合計画と総合戦略の関わりが分かりにくい。総合戦略に当てはまる施策が色付けされているので、右側から総合戦略の基本目標を書いたほうが分かりやすいのではないかと。また、現行計画はすべて横書きになっているが、資料3のレイアウト案は縦書きと横書きが混在している。縦書きと横書きが混在して読みにくいので、このレイアウトにした理由があれば教えていただきたい。
- 事務局： 一つ目の施策体系図については、まだ改善の余地があると思っている。いただいた意見を参照しながら再調整を行う。二つ目のレイアウトについてはあくまで一案であるので、複数案提示を行いたく思う。
- 柴崎委員： 縦書きにした理由があれば教えていただきたい。
- 事務局： 住民目線での見やすさを重視した。雑誌を手にとって見るような感覚で読めるデザインにしたつもりだが、これはあくまでも一例である。

大杉委員： 資料2について、縦軸（総合戦略）と横軸（総合計画）は並列と考えてよいか、それともどちらかが上位概念なのか。

事務局： もともとは総合計画が最上位計画として存在し、その中から人口減少・地域活性化に有効だと考えられる項目をまとめたものが総合戦略であるが、今回それらを統合することで表現としている。

大杉委員： 一番右の施策の展開方向について、総合戦略にあわせて色分けされていると説明があったが、黒字の部分はどう理解すればよいか。

事務局： 人口減少に関する項目が含まれていないものが黒字、含まれているものが色分けとなっている。

大杉委員： 黒文字はすべてに関わるということか。

事務局： 人口減少に資する取組として重点的に行うという性質のものではないということ。

中山委員長： 一番の総括的な計画は総合計画であり、政策を展開するための役割を担っているが、市町村によって政策や構成は違う。一方で総合戦略は、政府が地方創生の一環で進めているもので、構成はすべての市町村において基本的にはよく似ている。総合計画の施策にあるもののうち、いくつかの施策は総合戦略に含まれるという関係になり、総合戦略の施策のうち総合計画に含まれないものは無いということはない。

(3) 基本計画（政策「行政・安全安心」）案について

事務局： （資料4について説明）

（以下、グループに分かれて議論）

A グループ（1-1 行政運営、1-2 広域行政、1-6 公共施設）

向井委員： 1-1「行政運営」の関連する条例・計画等について、年号が間違っている。

事務局： 確認する。

- 青木委員： 現行計画に財政指数の推移の表が記載されているが、平成 20 年は古い。最新の情報に更新すべきである。
- 柴崎委員： ふるさと納税を加筆されているのはよいと思うが、ふるさと納税額が成果指標に含まれていない。意欲的に加筆してほしい。なお、ふるさと納税の確保は推進するのか。推進しない方向性だと思っていた。
- 事務局： ふるさと納税の返礼品が無いので難しかったが、返礼品の無い「寄付」はさせていただいている。
- 青木委員： やらない手はないと思う。町としての判断はあると思う。
- 遠山委員： 他自治体へのふるさと納税を防ぐことも必要だと思う。
- 遠山委員： 「④納税意識の啓発」について、「学齢層を中心に納税意識の啓発に努めます。」とあるが、納税意識の啓発と成果指標の「租税教室の年間開催回数」がリンクするのか。
- 事務局： 現在、税に関する教室を開催しているが、総合計画と納税意識の啓発の意図と成果指標がリンクしているのか、また、「租税教室の開催回数」が適しているのかについて、再検討する。
- 柴崎委員： 1-2「広域行政」の成果指標に「広域連携新規事業数」とあるが、具体的に広域連携でどのような事業を実施したいのかが見えない。具体的な視点を加筆しないと分からない。
- 事務局： 上牧町でできないことを連携しながら取り組むことが目的だが、かなり広範囲にわたる。表現を検討する。
- 阪本委員： まちづくり基本条例に広域連携の旨が記載している。
- 向井委員： 現況と課題に「2市5町」とあるが、2市5町になった経緯はあるのか。また、広域利用の検討の中で、2市5町とは違う市町村とのネットワークはあるのか。基本は2市5町なのか。なぜ王寺町が入っていないのか。

事務局： 基幹システムの共同化に関しては、記載している2市5町で取り組んだが、取組ごとに共通課題をもっている自治体と連携して組んでいる。

向井委員： 現況と課題に関して、5年前とは状況が変わってきている。5年前から新たに実施した広域連携事業があれば記載したほうがよい。

事務局： 表現を検討する。

遠山委員： 想定される取り組みの「広域連携による行政課題の解決」は広範囲すぎるのではないか。公共施設と重複するが、公共施設の広域連携は含めたほうがよい。上牧町は広域連携を積極的に取り組んでいると思っている。

事務局： 承知した。

柴崎委員： 1-6「公共施設」に関して、成果指標に「ペガサスホール利用後の満足度」が新たに追加されているが、その意図は何か。

事務局： これまで閉館していたが再開した経緯もあり、今後、施設の在り方を検討するにあたっては必要な指標として設定した。

柴崎委員： 成果指標に「公共施設広域連携検討会の年間開催数」とあるが、施策の成果になるのか。

事務局： 再検討する。

B グループ (1-3 町民参画・協働・地域コミュニティ)

安中委員： 自治会活動が主なコミュニティとなっているが、自治会がないところが二つある。片岡台一丁目のマンションは住民に呼びかけ、結果的に一人の方が地域活動に参加していただいている。
もうひとつ消防署の前の一角の大きな世帯だが、そこは自治会がない。どんな活動をされていて、どのようにゴミ出しされているのかなど聞いてみたい。

事務局： 自治会設立に向けては行政から話をしているが進んでいない。ゴミ出しの班をつくるときに自治会を設立したいと言われた方がいた。現在

は、ゴミ出しの場所を決め、その場所に捨ててもらっている。

安中委員： 自治会がなくても問題がない状態というのが、逆に問題ではないか。ゴミがないきれいなまちというのは自治会の地道な活動によって成り立っている。しかし自治会に加入しなくても町が行ってくれるというのは疑問を感じる。ゴミ出しはもめごとのひとつであり、自治会としては大変な中で行っている。加入しなくても町が行ってくれるということが周囲の耳に入り、既存の会員さんからは不満の声が挙がっている。

事務局： 自治会設立に向けて働きかけていく。

安中委員： 自治会に入るメリットが必要かと思う。

暁委員： 既存の自治会でも高齢で活動が体力的に厳しいために抜けられる方がおられるが、防災やまちづくり等いざ何かあったときにどうケアするのかという心配がある。若い方が面倒で加入されず、高齢の方は活動に不安があって自治会の役がまわってきてもできないので抜けられる。自治会に加入しつづけていただくということが必要なのかなと思う。

事務局： 地域コミュニティに参加していただく方法や工夫が行政にも必要とされている。案があれば、今日すぐでなくてもよいのでご提案いただきたい。

安中委員： 私の加入する自治会の場合は、高齢の方が班長をできない場合、周りの方が順番を抜かしてもよいことになっている。高齢の方がいることを班長たちは把握しているので、何かあったときにはリストを会長が全部チェックして何かあったときのためのシステムはとられている。防災士と自治会長の二本立てを明確にしなくてはならない。防災士の存在は周知されていないため、災害時にどのように対応したらよいか分からない。そこは行政が間に入ってもらわないと踏み込めない。

迫委員： 私の自治会でも、必要に応じて会則を変更するなどして、臨機応変に対応してきた。柔軟かつ具体的な支援を行っていただけるとよいと思う。

暁委員： 地域の方が子ども達を守るために学校へのボランティアを行い、それにより行事や環境等が支えられているが、コミュニティスクールとし

て名称が変わっても内容は同じである。そこに新しい人が入ってこないため高齢化が進んでいる。保護者は働いているため、シルバー世代等を引き込むことが重要であるが、働いていても活動に参加できる方法があれば、充実するのではないかと思っている。

安中委員： 現在は 80、90 代の人草取りを行っている。若い人は共働きなので 40、50、60 代をどのように引っ張り出すかが課題である。

暁委員： 学校が地域の皆さんに支えられているのはありがたいが、それが次に続かないのはもったいない。これは自治会やボランティア、防災等全部につながる。

安中委員： 60 代以下の男性に地域に協力してくれる人が少ないのは全国的な傾向かと思う。見守りの人が足りないとき、有償ボランティアにしてはどうか。若い人はお金が必要だから動いてくれるかもしれない。

安中委員： 「③人材バンクの拡充」について、上牧町には優秀な方が沢山おられる。町外に行って活動されて地元では黙っている方がいるため、人材の掘り起こしが必要かと思う。

事務局： 令和 4 年度から 8 年度までで 45 名とすることを目指している。人材バンクに入っている方にはいろいろな形で支援していただいているが、これからも活用させていただきたい。

安中委員： 人材バンクで人を集めたとしても、役場がそれをどう告知するのか。私は以前登録して 1 回も告知してもらえなかった。それをどこで披露させられるのか。そこは問題かと思う。確保しておきながら活用していない中で 45 名集めても意味がない。

暁委員： 「④地域主体の協働のまちづくり」について、まちづくり協議会は自治会とは別なのか。

事務局： 上牧町はまだ団体がない。理事会での説明や研修等を行って普及できればと思っている。

黒松委員： 指標の目標を決める前に、現在の数値が必要ではないか。

事務局： 資料（成果指標一覧表）に記載している。

安中委員： 「⑤公募型補助金の活用促進」について4月から公募開始しても、5月中に審査がないと交付が6月頃からになり、行事に間に合わないことがある。年度初めから動き出せるようにできるとよい。

安中委員： 「⑦ふるさと意識の高揚」について、他自治体のようなゆるキャラ等何もない上牧町において、魅力って言われてもイメージができない。何か目標や指針等、上牧町らしいところがほしい。

黒松委員： マリッジサポーターとしては、「恋の町かんまき」として進めていきたい思いがある。

岩井委員： 「①地域活動・NPO 活動への参加機会の創出」にある想定される取り組みから「地域活動の情報発信」が削除されているが、残しておいたほうがよいのではないか。

事務局： 検討する。

C グループ（I-4 情報の発信と共有、I-5 情報基盤）

手嶋委員： 防災無線の音が割れていることがあるので、聞きやすい放送にしてほしい。

事務局： 前期基本計画では、防災無線を積極的に活用する方向で進めていたが、クレームをいただくことも多い。根本的な改善も検討しているが、地形的な問題などもあり、なかなか難しい部分もある。現状は、運用のなかで改善に努めているところである。

松井委員： 使用回数を絞って、内容を短くしたほうがよいと思う。

事務局： 担当課も工夫・試行錯誤しながら取り扱っていると思う。ご意見は担当課と共有させていただく。

辻本委員： SNS は具体的には何を運営しているのか。

事務局： 現状、LINE、Facebook、YouTube を運営している。Instagram、Twitter

も活用したいという話はあるが、すべての投稿を同期対応できていないことやリテラシーの問題もあり、絞って運営している。現在は LINE を一番に使うことで職員のリテラシーを上げているところで、登録者数も 2,000 人を超えた。

辻本委員： 広報事項を役場に掲示してほしい。

事務局： 一部ではあるが、現状掲示を行っている。

辻本委員： 興味のもてる広報誌にしてほしい。

事務局： 昔に比べて、興味をもってもらえるように改善を努めている。

松井委員： しかしながら、広報誌のシステム自体は 40 年前と一緒だと感じる。

事務局： LINE はターゲットを分けて情報を提供することができ、使い分けることで効果的に情報を発信することが可能だが、現状はできていない。職員のスキルを上げることが必要である。

松井委員： 情報発信の方針が必要である。例えば移住したいと思う人が増えるような情報の発信が足りない。

事務局： 上牧町はそもそも認知度が低いので、認知を上げることは必要かと思う。

松井委員： 発信能力を育てることが大事である。

辻本委員： アンケートで広報誌のタイトルを募集するのはどうか。

堀川委員： 広報担当の町民を公募するなどはどうか。

事務局： 広報役の市民公募は生駒市が実践しているので、参考にさせていただく。

事務局： 1-4「情報の発信と共有」について、変更案についてのご意見はあるか。

松井委員： 情報発信の方法と具体的な体制を書いてほしい。

辻本委員： 興味をもたせることを重視する旨を書いてほしい。

事務局： 総合計画なのでどこまで具体的に記載できるかわからないが、検討する。いずれにしても内容的には施策の展開方向に記載すべき内容だと考える。計画に反映できなかったとしても、担当課と共有し、運用面では改善を図っていきたい。

松井委員： 今現在はよいが、内容的に5年後はどうなのだろうか。

事務局： そのあたりも踏まえて、基本的に幅の広い表現で記載するようにしている。
1-5「情報の発信と共有」について、変更案についてのご意見はあるか。
(意見なし)

D グループ (1-7 防災、1-8 安心安全・防犯)

大杉委員： 基本計画はこれからの5年間か。これからの議論は5年間で見直す内容でよいか。

事務局： そのとおりである。

大杉委員： 変更案【現況と課題】文中「今後は新型コロナウイルス感染症防止対策に配慮するとともに」について、今後、新たなウイルスが出てくる可能性も否定できないため、新型コロナウイルス感染症と断定せずに、幅広い表現にしたほうがよいのではないかと。来年まではコロナ禍が続くかもしれないが、今後は、「感染症」や「ウイルス感染症」等、一般的な名称にするほうがよいのではないかと。

宮田委員： 上牧町が作成したハザードマップは非常に価値があるが、町民には活用されていないため、ハザードマップの周知を入れていただきたい。

石丸委員： ハザードマップの周知については、その内容を知らせることが重要だと思う。説明会を開催するなど、内容を町民に知らせる取組を記載してほしい。

宮田委員： ハザードマップは、地震の断層が書かれていない。

事務局： 上牧町では、主には大雨時の土砂災害を想定したハザードマップを作成しており、今後は活用について検討していきたい。

有江委員： 居住誘導区域を設定してコンパクトシティを進めていくこととなると思うが、ハザードマップのイエロー、レッドゾーンも含めて、町全体として、どこに人を住ませるのがよいのかを考える必要がある。

宮田委員： 「①地域の防災力の向上」について、住宅の耐震制度の法律改正があり、上牧町も耐震診断の費用を負担しているが、実際の活用が少ない。耐震に対する意識が低いのか。耐震に対する意識向上の取組はどこかに入れていただきたい。

事務局： 第3章「都市環境」で位置づけられている。後期基本計画にも担当課と調整を行い、追加を検討する。

宮田委員： 「①地域の防災力の向上」で、消防団の組織率に関する記述を追記してはどうか。消防団が組成され活動していたら、地域防災力の強化が進むと考えられる。

事務局： 合計9組織がある。消防団の取組の強化により地域の防災力は強化できると考えられるので、文言についても検討したい。

宮田委員： 「②災害時の救急医療体制強化」について、避難場所が集会所となっているが、集会所が古いため、安全なのか確認が必要ではないか。

事務局： 避難所の耐震も検討した上で安全かを検討しないといけない。「③消防防災体制の強化」で、防災拠点の環境整備で位置づけられており、避難した際に安心して過ごせる環境整備と考えている。その中で、建物の環境整備も含めて安全を担保できるように担当課とも検討する。

中山委員長： 本日の委員からの意見を踏まえ、次回、事務局から修正案が提示されると思う。
全体的なことにも関わるが、前期基本計画を実施する中で浮かび上が

った課題があれば具体的に加筆したほうがよい。また、これも全体に関わるが、成果指標について目標値しか記載されておらず議論がしにくい。前期基本計画が始まった段階の数値、中間段階の目標値、最終段階の目標値と3つの数字が並んであると変化が見て分かる。中間段階の目標達成度、目標値を変えるのであれば、その理由や中間段階の目標が達成できていないものはなぜ達成できなかったのか、それらを分析することで後期の課題が明確になる。

1-1「行政運営」の項目に「住民や団体の役割」があるが、内容が当たり前すぎているところがある。この欄を設けるのであればもう少し具体的に書いたほうがよい。もし抽象的にしか書けないのであれば、この欄そのものを記載するか検討したほうがよい。

細かい指摘として、1-3「町民参画・協働・地域コミュニティ」の現況と課題に「核家族」と入っているが、核家族化は現在減少しており、単身世帯や老人の夫婦のみの世帯が増えている。核家族化が進んでいるという表現は誤解を与えると感じる。「②町民参画機会の拡充」については、オンラインは感染リスクを下げるためというのもあるが、オンラインだから参加できるという方もおられる。今まで参加できなかった人が参加できるといった内容を強調したほうがよい。

1-4「情報の発信と共有」の目指す姿について、町内への情報発信について書かれているが、今回シティプロモーションの施策をかなり重視されるようなので、町外へも含めて目指すべき姿を設定したほうがよい。

1-5「情報基盤」について、現況と課題に「オンライン化の普及に伴う環境整備」とあるが、施策の展開方向でもハード面の環境整備について記載できると思う。

成果指標でマイナンバーカード交付率100%となっているが、一人でも交付できなかったら達成できないことになるので、検討いただきたい。

1-7「防災」について、新型コロナウイルス感染防止対策とあるが、この項目を防災に入れるのであれば、施策を「防災と感染症」という項目名にすればよいのか、新たに「感染症」という施策を作ればよいのか分からないが、感染症の広まりで行政が対応したことと、それに伴う課題についてどこかで記載すべきである。

1-8「安全安心・防犯」について、現状と課題の「医療機関との連携」や「②緊急医療の充実」はこのページに入るのか、もしくは2-1「保健」や2-2「医療」に入るのか検討していただきたい。

成果指標について、消費生活相談件数は増えたほうがよいのか減った

ほうがよいのか判断しかねる。

これらについても次回までに検討いただけたらと思う。

3. その他

- ・ 第3回審議会の日程について
- ・ 意見シートの提出について
- ・ 電子データの提出について

4. 閉会